

中山間地における夏どり実エンドウの新作型開発

[研究のねらい]

本県の実エンドウは6月中旬～10月上旬の出荷がほとんどなく、高温期に出荷できる作型の確立が望まれています。そこで、中山間地において夏季冷涼な気象条件を活かし、高温時期に収穫可能な実エンドウの新作型を開発します。

[研究の成果]

- ①春まき6月どり栽培では、2～3月に播種します。播種時期が遅くなるほど収穫時期は遅くなりますが、収量は少なくなります。慣行の秋まき6月どり栽培に比べて、2月播種は収量が80%程度で収穫盛期は約6日遅れ、3月播種では収量が70%程度で収穫盛期は約10日遅くなります(表1)。
- ②夏まき9～10月どり栽培では、開花促進のための種子低温処理を行った後、7月20日前後に播種するのが適当であり、L級およびM級の収量は50～60kg/aです。これより播種が早いと莢が小さくなり、遅い場合は収穫時期が遅くなり、収穫後半に霜害を受けやすく収量も少なくなります(表2)。
- ③これらの2作型により従来作型に比べて6月で約20日遅く、9月で約1か月早く収穫が可能となります。(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- ①本試験はかつらぎ町天野(標高400m)で行いました。実施にあたっては地域の気象条件に応じて播種時期を検討する必要があります。
- ②品種は全て「きしゅうすい」を用いました。

表1 秋～春まき6月どり作型における播種時期と時期別収量の関係

播種日 (月.日)	収量(kg/a)					計	収穫期間 月/日～月/日	階級別割合(%)*		
	6/上	6/中	6/下	7/上	計			L	M	S
11.22	9.5	84.5	36.3	0.0	130.2	6/9～6/22	50.5	30.3	19.2	
2.28	0.0	37.6	62.8	1.5	102.0	6/12～7/3	43.7	37.9	18.4	
3.19	0.0	9.4	58.5	15.1	83.0	6/18～7/3	50.8	37.6	11.6	

* L:5粒以上で欠粒のない莢、M:4粒以上、S:3粒以下、品種:きしゅうすい

表2 夏まき夏秋どり作型における播種時期と時期別収量の関係

播種日 (月.日)	種子 低温処理*	収量(kg/a)					計	収穫開 (月/日)	階級別割合(%)*		
		8月	9月	10月	11月	計			L	M	S
7.15	無処理	0.0	16.9	69.1	0.0	86.1	9/25	62.6	27.3	10.0	
7.15	低温	0.0	61.5	6.2	4.2	71.9	9/2	42.1	32.5	25.4	
7.27	低温	0.0	38.1	31.1	0.0	69.2	9/17	50.4	32.1	17.5	
8.6	低温	0.0	0.0	32.7	34.7	67.4	10/14	44.9	30.4	24.7	

* 種子低温処理:吸水後の種子を2℃で20日間低温処理、品種:きしゅうすい

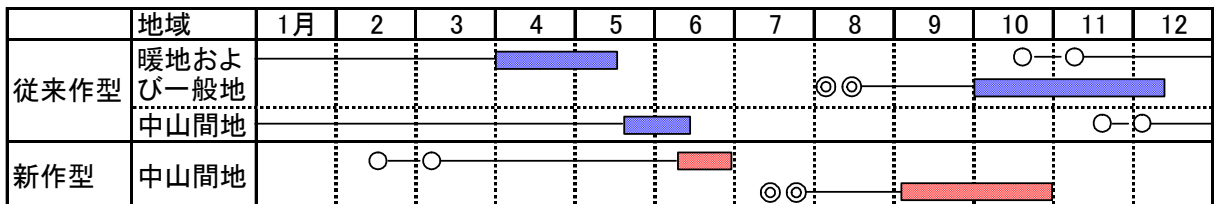


図1 和歌山県における露地栽培実エンドウの従来作型と新作型

凡例: ○播種、◎低温処理後播種、■従来作型の収穫期、■新作型の収穫期

実施年度:平成2～5年

担当者:西森裕夫